

JX日鉱日石エネルギー(株)の 環境・安全・品質の取り組みについて

JX日鉱日石エネルギー株式会社
常務執行役員 環境・品質本部長

たなはし のぶき
棚橋 信之



このたびの震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。
また、震災発生直後、弊社仙台製油所において火災が発生したことにより近隣住民の方々をはじめ関係する皆様に大変なご迷惑とご心配をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。また、一時当社の石油製品供給能力が低下し、お客様には多大なご不便をおかけしたことにつきましても重ねてお詫び申し上げます。

昨年度は、7月に私どもJX日鉱日石エネルギー(株)がスタート、3月には東日本大震災が発生し、弊社としても激動の1年でありました。弊社といたしましてはエネルギー供給に対して大きな責務を負う企業として、今回の震災を教訓に我が国のエネルギー供給のあり方について検討を重ねていく所存です。

今後とも弊社製品をご愛顧いただき、引き続きENEOS Technical Reviewをお読みいただければ幸いです。それでは本紙面をお借りしてJX日鉱日石エネルギーの環境・安全・品質への取り組みをご紹介します。

JXグループでは、「エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて、持続可能な経済・社会の発展に貢献します。」というグループ理念のもと、企業活動を展開しています。

環境・品質本部では、JX日鉱日石エネルギー(株)の環境管理・安全管理に関する企画および総括指導、品質保証・管理に関する方針策定・体制整備およびCSの推進を担っております。

1. 環境部門の取り組み

近年、地球温暖化、生物多様性の損失などの地球環境問題が顕在化しており、2010年にはメキシコのカンクン市で気候変動枠組条約の第16回締約国会議が、また名古屋市では生物多様性条約の第10回締約国会議が開催されました。

このように政府間で交渉が行われる一方、企業の果たす役割も大きく、良き企業市民として、地球環境保全に役立つ事業活動が求められています。

JXエネルギーグループでは、以下の環境方針を作成しました。

JX エネルギーグループは、

- (1) より良い地球環境づくりに役立つ、技術・商品・サービスを創造します。
- (2) 地球温暖化の防止に努めるとともに、生物多様性の保全に配慮します。
- (3) あらゆる事業活動において、継続的な環境負荷低減に努めます。
- (4) 高い倫理観に基づき、環境法規制、条例等の遵守に努めます。

また、2010年～2012年の中期環境経営計画では、「地球温暖化防止と生物多様性保全の推進に向けた取り組み」、「環境負荷を継続的に軽減する取り組み」、「環境管理体制の充実」を大きな柱とし、各種環境保全活動に取り組む事としています。

「地球温暖化防止と生物多様性保全の推進に向けた取り組み」では、環境にやさしい商品・サービスを提供・開発するとし、環境配慮型の燃料油や潤滑油等の開発・販売を行っています。その他にもサプライチェーン全体としてのCO₂削減として、製油所等で利用しているエネルギーの消費原単位を2012年度で、2009年度比3%削減する事を目標としています。

「環境負荷を継続的に軽減する取り組み」では、土壌汚染に対する取り組みとして土壌汚染調査・汚染対策の推進、VOC（揮発性有機化合物）の削減、廃棄物の削減に取り組んでいます。

「環境管理体制の充実」では、中期環境経営計画を着実に実行・推進するためにJX エネルギーグループ EMS 体制を構築して、関係会社と共に取り組んでいます。

2. 安全部門の取り組み

安全部門の取り組みとして、JX 日鉱日石エネルギーの発足にあたり、弊社グループにおける安全に係る基本姿勢を示す「グループ安全理念」を制定しました。

グループ安全理念

私たちは全ての事業活動において『安全』を最優先します。

- (1) 安全の確保は企業の社会的責任であり、全ての従業員の仕事そのものであるとの認識を持って行動する。
- (2) 「すべての事故は未然に防止できる」との強い信念を持って、実効ある安全活動を推進する。
- (3) 最高の技術を追求するとともに、最高の技能を修得し、安全確保に必要な高度な感性を養う。

この安全理念をもとに毎年安全方針を作成し、安全方針にもとづいて設定した重点目標を達成すべく、関係会社・各所において活動しています。2011年度は、「ルール遵守の徹底」、「安全諸活動の確実な実行」、「危機管理能力の向上」を3本柱として業務要領・手順書の遵守と継続的な改善、各種の労災撲滅活動の推進、運転および保全管理レベルの向上、内部監査の充実などの具体的な取り組みを進めています。一方、これらの安全諸活動やトラブル対応等、やると決めたことが確実に手順どおりできているか環境安全総合監査で確認し、各所の優れている点や改善すべき点をアドバイスすることによって安全管理レベルの向上を図っています。

3. 品質部門の取り組み

JXグループ行動指針(EARTH-5つの価値観)のひとつである「信頼の商品・サービス」に基づき、お客様に商品・サービスを提供する際の品質保証・品質管理に係る考え方、姿勢等の基本原則を定めた「品質方針」を次のとおり制定しました。

[JX日鉱日石エネルギー品質方針]

私たちは、一人ひとりのお客様にご満足いただける信頼の商品・サービスをお届けするために、次のことを実践します。

- (1) お客様の要望や期待を把握し、商品・サービスに活かします。
- (2) 地球環境や安全性に配慮し、お客様と社会全体の安心を目指します。
- (3) 品質苦情・トラブルの防止に努めるとともに、品質を維持・向上させる取り組みを継続的に推進します。

お客様の要望や期待を把握するためには、お客様の生の声をいかに採り入れるかが重要です。そこで、お客様からの問合せ、苦情への迅速・的確な対応およびお客様満足度の向上を図るために、品質保証部にお客様センターを設置しています。同センターには毎月約9,300件ものお客様の声が寄せられており、関係部署と協力しながら誠実に対応し、お客様の声をタイムリーに販売施策等に反映するよう努めています。

地球環境や安全性への配慮については、商品の「人の健康や環境に対する安全性」と「品質における遵法」をお客様の安心にとって最も重要な品質要件(=「安心品質」)と位置付けて取り組むこととしています。商品のための化学物質管理基準である「商品化学物質ガイドライン」を制定し、商品の化学物質に起因する危険・有害性の低減を実現しています。昨今、化審法の改正やEUにおけるREACH規制等、化学物質に対する国内外の規制が強化されており、「安心品質」への取り組み強化に努めています。

品質苦情・トラブルの防止および品質を維持・向上させる取り組みについてですが、弊社は燃料油、潤滑油、家庭用燃料電池(エネファーム)等商品単位で品質保証を確実なものにする体制を整備しています。①それぞれの商品で設計、製造、物流、販売等工程ごとの品質管理を実行する「機能別品質管理担当部署」、②商品の品質保証を統括する「商品別品質保証所管部署」、③全商品の品質保証を統括する「全社品質保証統括部署」の三層体制を敷き、役割に応じた品質保証・品質管理を行うとともに、3つの異なる視点から品質に係る取り組みをチェックすることで、品質苦情・トラブルを起こさないよう万全を期しています。例えば製油所・製造所ではISO9001やTPM(Total Productive Maintenance)活動等で徹底した品質管理を実施し、加えて潤滑油事業では各所の実力を評価する独自基準(ENEOS潤滑油工場認定制度)を導入し、各所における工程管理のレベルアップを図っています。

環境、品質に係る企業活動につきましては、年々お客様や社会から求められる水準が高まっており、今後ますます我が本部の役割が重要になることが予想されます。会社の規模が大きくなるほど、社会に及ぼす影響も同様に大きくなることを肝に銘じ、リーディングカンパニーとしての自覚と責任感を持ち、常に先を見据えた取り組みを行っていきたいと考えております。